

空気・信頼そして未来、見えないものを大切にします。

身近なオフィスから病院や公共施設など社会を支える場所まで。

新日本空調は、独自のエンジニアリングシステムで

より上質な空気をまだ見ぬ未来へと送りつづけます。

環境性能アップは、ビル診断が決め手です。

エネルギーを「見える化」します 改正省エネ法に対応します 省エネ関連助成金の活用を支援します

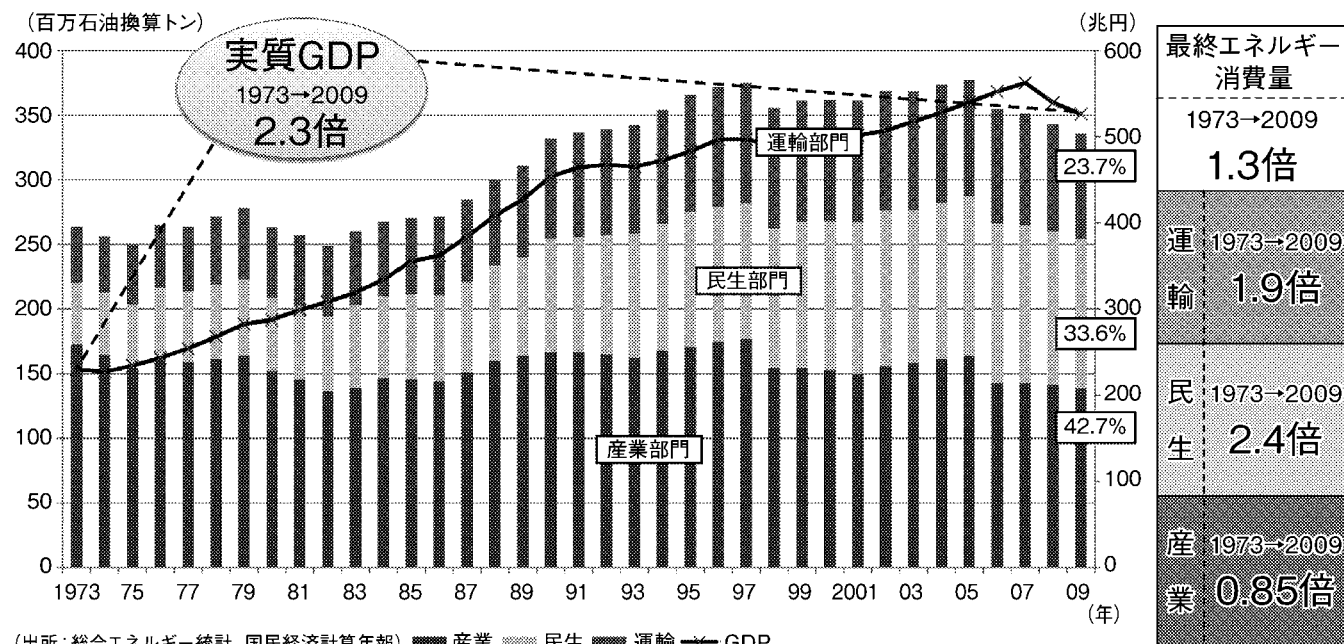
当社が行う設備の更新は、単に経年劣化による能力の低下や老朽化に対処するだけでなく、時代のニーズにこたえるシステムのグレードアップを提供いたします。建物の付加価値を向上させ、省エネルギー・快適環境・地球環境に配慮を行い、人と空間の調和を私たちは総合的にコーディネートいたします。

空間の環境コーディネーター 新日本空調に相談してみませんか？

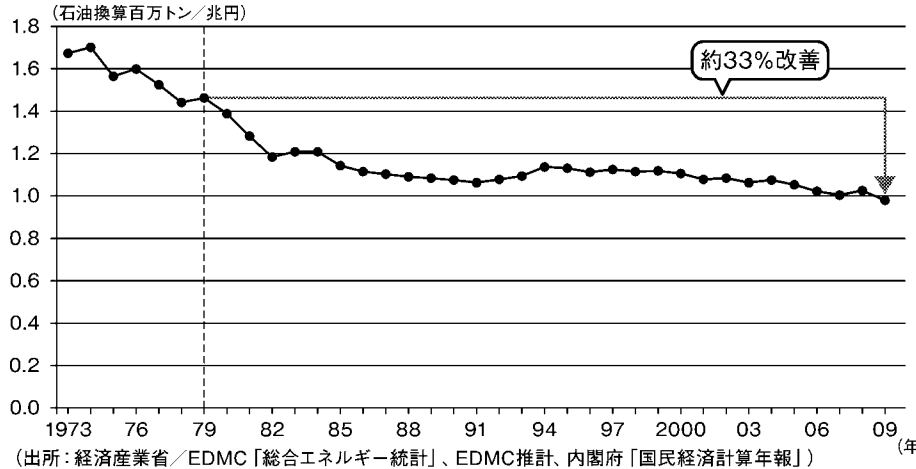
人と空気と環境と  
新日本空調

〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-31-1 浜町センタービル Tel:03-3639-2707 Fax:03-3639-2760 http://www.snk.co.jp

## 日本における最終エネルギー消費の推移



## 日本の実質GDP当たり一次エネルギー消費量



温室効果ガスの排出量削減に向け、わが国では省エネなどによるエネルギー使用量の削減、温室効果ガスを排出しない新エネルギーの増加を取り組むべき課題としてきた。また、昨年の東日本大震災による福島第一原発事故の影響で電力使用量の削減は急務になっている。ビル・建築物での電力使用や導入設備を見直し、改善していかなければならない。

# ビル・建築物の環境対策

日射の方向に合わせてオーニングを調整するなど自然を効率的に取り入れる開発が進む



経済産業省はアジア諸国を中心に、世界のエネルギー需要は2030年に08年比1.3倍の160億1400万石換算に急増すると見込み、エネルギー需給構造のひっ迫を予想してきた。日本の最終エネルギー消費量は増加している。その一方で、産業界ではエネルギー効率の向上に積極的になり組んできた。1979年から09年までの30年間でエネルギー効率を約33%も改善した。また、09年4月に改正省エネ法を施行し、それまでの規制より対象となる企業・事業所の範囲を拡大し、対象となる業務用エネルギーは1割から5割に増加したという。国はこうした取り組みで産業界での省エネ対策を後押ししてきた。

東日本大震災の発生後、日本はエネルギー不足が続く状況の回復については先が見えなくなっている。「電力供給」のあり方という根本的な部分から見直す動きにあり、政府では検討を進めている。全国的に節電への意識がより一層深まった。

経産省は総合資源エネルギー調査会省エネルギー部会を開き、今後のエネルギー政策の展開について検討している。震災後には、以前から求められていた省エネと、ピーク対策の両立が必要不可欠という声も上がるが、ピーク対策として自家発電の利用がエネルギー量の増加につながる問題も指摘された。こうした時

## エネルギー需要30年に1.3倍へ

流から省エネへの意識は高まり、率先して省エネ製品の導入を検討する企業が増加している。省エネ対策は環境にやさしい取り組みであるとともに、企業のコスト削減の有効な手段にもなる。

## 節電改修補助金公募は29日まで

オフィスビルでは空調と照明がエネルギー使用量の約70%を占め、エト機器の普及でコンセントの使用量も増加している。ビルや工場のエネルギー使用量、使用機器を分析し、改善策を見いだすことが重要だ。

省エネルギーセンターは経産省から補助金を受け、無料で省エネ診断を行っている。外部の専門家に診断してもらった上で、それまで気付かなかった新しい観点からエネルギーの使用量を分析でき、効果的な提案を受けられる。受診条件は年間エネルギー使用量(原油換算)が100キロワット以上、1500キロワット未満、改正省エネ法の対象外の中小規模のビル・工場、97年度から始めて10年度までに、ビルと工場を併せた診断件数は8520件。

また、政府は11年度第3次補正予算で措置された、建築物節電改修支援事業費補助金を、2月29日まで公募している。対象は①既存の民生建築物について行われる②既設

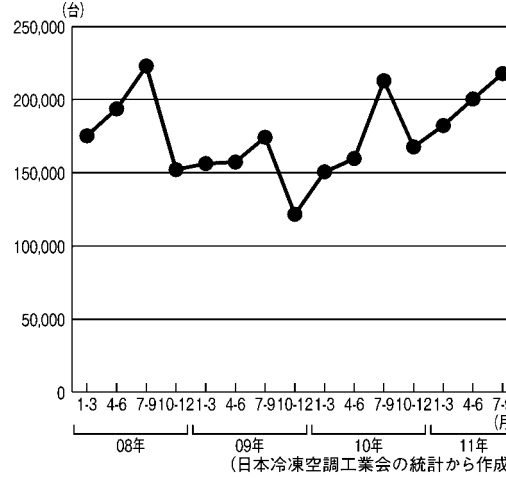
## 空調設備出荷増 省エネ意識高まる

日本冷凍空調工業会の統計では10年のパッケージエアコンの国内出荷台数は前年比13.1%増の68万8933台、11年1-9月期は前年同期比14.7%増の60万5644台になった。リーマン・ショック後の落ち込みから回復してきたこと、昨夏の節電対策で省エネ効果が高い製品への買い替えが進んだことが要因と考えられる。

空調設備は常にニーズがあり、浮き沈みがある。しかし、これまでは日本と大きく差を付けていた韓国・中国だが、現在は日本のすぐ背後にまで技術力が迫り危機感を覚える。と業界関係者はいう。国内の空調メーカーは、市場だけでなく、経済発展が期待される中国・インド市場への進出もしている。市場獲得へ動き出している。

現在活用している機器の効率を上げる以外では、再生可能エネルギーを利用することも大きな効果を生む。設置台数が年々増加している太陽光パネルだけでなく、太陽

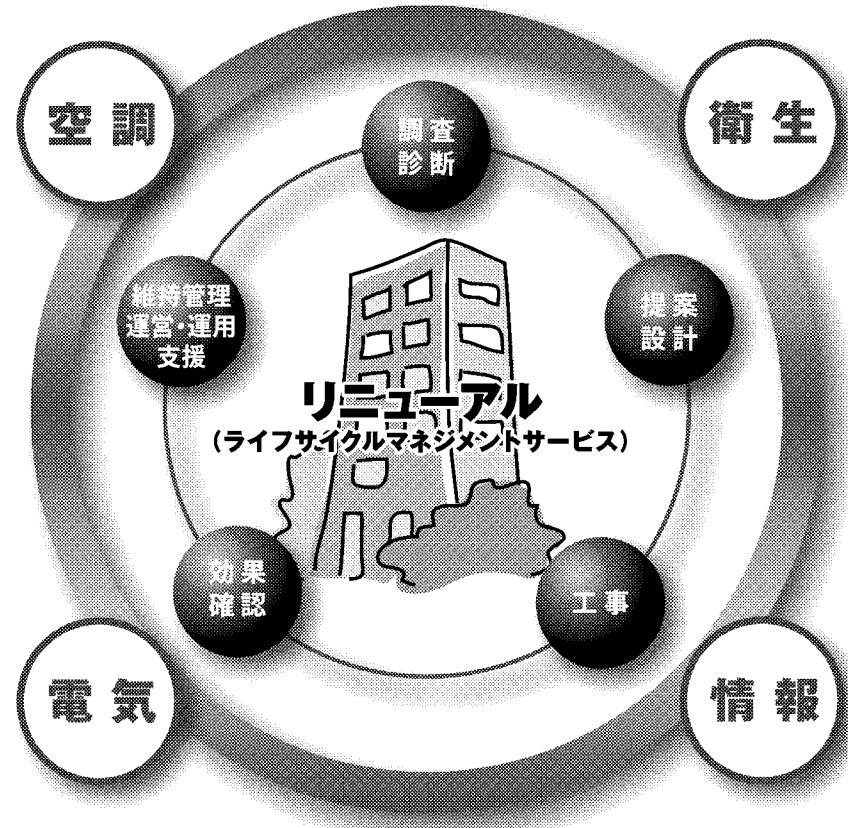
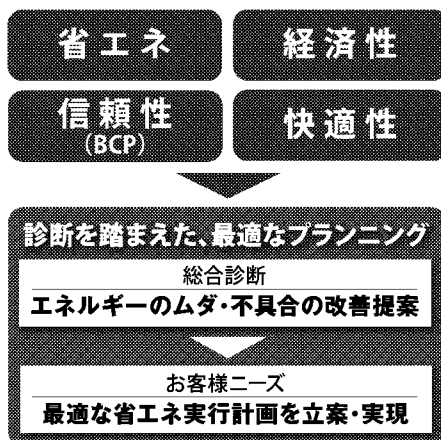
## 四半期のパッケージエアコン国内出荷実績



時代にまっすぐ、技術にまじめです。

## 4つの視点で建物リニューアルをトータルコーディネートいたします。

日比谷総合設備は、「省エネ」「経済性」「信頼性(BCP)」「快適性」の4つの視点で、建物の設備診断から設計、施工、運用、保守までワンストップサービスで行うトータルエンジニアリング企業です。当社のリニューアルは、空調・衛生・電気・情報の総合力で高い付加価値、高い収益性を実現させます。そして、工事完成後もライフサイクルマネジメントサービスで、お客様と永くお付き合いをしております。



## 空気・水・熱で織りなす、低炭素エンジニアリング。

地球を、私たちの営みを、その根底から支える「空気」「水」「熱」。  
朝日工業社は、この3つを核とする独創的な発想と確かなエンジニアリング技術で、  
省エネルギーへの明るいアンサーを  
そして、新たな活力への魅力的なヒントを社会に提供しています。

楽しく考えたい、空気・水・熱のこと

朝日工業社



朝日工業社

〒105-8543 東京都浜松町1丁目25番地7号  
TEL:03-3432-5822 URL: http://www.asahikogyosha.co.jp/



日比谷総合設備株式会社

東京都港区芝浦4-2-8(住友不動産三田ツインビル東館) TEL:03-3454-1385 http://www.hibiya-eng.co.jp